

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7

古今圖書集成

卷之十一





古今和歌集卷第十一

玄再

歌 現在

後人不知



郭ふややと月のあやめあやめとくねをもとみ
よきあらはれやへくとて綴乃えもやうくねや
りと綴月とくとんそあやめよとひあやめくと
りそんとくわくとくいはやと月のとくひつをすら
すあやめむれ乃くとくはやと月のとくひつをすら
けやめもとくとくはやと月のとくひつをすら
うとくとくはやと月のとくひつをすら
文をとむ物をとくとく綴の日綴月布月
うとくとくはやと月のとくひつをすら
因とくとくはやと月のとくひつをすら

護國也云うにあらむせ。タクのうへたるをつと
もかへあやうにね經ふるどあくた物よほひよまう
ちうりき代ふまくろい勢ふと文也。依文もうあゆも
わあれをつめがむかはん人むけのむかしもくの人に
ひゆでさうのかやうにいす。いはあまのこあり
えもくーとちうり代めり。くわいたじ事と人よ
ちうりうきよとくはくあをねがふ。別せきて
すもすもや。蓋盛要。

まかはは附

まかははのあくらむて金六田はあくとせぬ下
まかははのあくらむて人とせむ。もうはあくとせむ

まかははのあくらむとせむ。まかははの
まかははあくらむ。まかははあくらむ

紀實

まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ

舊住

藤原義居

まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ
まかははのあくらむ。まかははのあくらむ

されりをあたえ。あれをまじでやどるか人よ支
きをやらぬとしもしぐはれまへるが、まつた
ふたへりある人よ、猶へても活きるがゆゑに、
かひの風よかくあむかへり。おまかせとてまじか
といひあらんせ

左家文方

まとうのまよまくお坂乃園の、まくはりとふか卯卯
おもふへと音ふはれにあそでしとあがとすり
吉羽ひきまくとまくとじよんむあお坂乃園おふ
さまよかみだらきおとまくにまくといら
まくあめくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
人に心地がまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まとうまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
人のまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと

右家文方

事いかくこまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと

13
14

とある。文集云、風不見、水ノ人、日見と風を
おそれしむる乃日も、の日も、ひよ多めたら
車の下をくわらすり女乃うかれほのふみえ
けぬとよみては、うづく。

望ゆるも、あても、おまきも、もうき。おまきどぞと、渴
て、よじて、よんで、因みや。すれど、いばくかて
おもてせ。お近の、おゆゆき、お野の、お風。ひとりの日と
お月あらす秦氏の隣家も、うら小弓の御経うち
と、あくね、袖、あわせ。お時ほおれ。うちの、うりと
り、うり、うり。ひとりの日と、ひとりの夜。褐、紫、紫
索、紫、緋、索、粉。おとおゆゆきの、ひとりの日と、すりと
うお活よ、うりどもの、まく、く褐と、りわて、まく

ふと、ひとりと、うん、あがり、やめ、荒を結す。單
も、うき、うき、荒を結をかく。やうよく、また、結が
も、ひ、たれ。は、あ、あ、うて、す。と、ひ、う。一禪
け、ひ、う。乃日の事。は、性、も、入道殿。まく、六月
うる。

ちうひの花の、綾、よ、ひ、く、か、や、ま、ゆ、ひ、う、成、く、
後、れ、鈴、居、ま、う、り。凡、左、右、も、の、残、村、も、六、月、う、い、左、
乃、荒、を、結、は、う、き。お、近、の、荒、を、結、す。う、は、な、と、お、
と、結、六、月、も、お、も、ま、ま、を、結、う。後、れ、鈴、居、ま、う、
う、う、ま、く、は、う、ひ、と、う、う。ひ、う、り、と、え、は、ほ、お、れ、う、
う、尾、と、引、れ、て、う、う、ゆ、よ、む、う、り、と、ひ、う、引、う、
う、う。荒、を、結、む、か、れ。塗、れ、ど、そ、れ、を、た、く、う、

うれやうよりとまはるがふくもとまほにひの日と
ひととひどり乃日といふ也

吉原素平翁居

アシカアシカセナ人おもへあやかさゆらるるに
うとや人のあいへばぢらむとくまやちうて
くもんと。一二の人がおふでうしゆゑくハ
を思へわとあふれとやより人のおゆぢりゆゑ
乃ふうりあふたうちかひなくさり。又あざめかくと
つてくわき

五

傍人あくと

あまくわらわやくまくまくとあくわく
あれくわくまくまく行うあらきかくまくとあくまく

アシカアシカとあまくわ。ハギーにあくわくとあく
あくみをかはる。石竹のあくわくとあく。あやかくハギー
あはくはくはくはくとあくとあく。いせじ事修物すと
あり。大和物語の事。モ身ももともれとあくて、あ
らうおわくとあくのあくやとあく。モ身ももと
あくのあくあり

かとくわくまくまくとあくはくはくはくはく
あく女乃もとあくをあてはく。もくわく

もくわくとあく

吉原素平のあくとあくとおこゆくおれづくふだく。もく
おぢにあくえむとあくとあくとあくとあくとあくとあく
ゲゆりおとくとあくとあくとあくとあくとあくとあくとあく

にあひひよそづらまどつみアヘタスシホのう
よみくらひゆきりもきゑてといけよ。文字とそた
アレはすのあらわだいとるひあくいは

人れ花つるをかよひてうさうりう人
のかぶねむとてはうつる 痛癪とも

つるゆき

山さくさあやくみりかねふもみくし人を立
ほのふみくし人のまくしをくもとよやアシギ
ミモリ乃まちうら

歌うらむ

たうもあくみくしのあやまじんと人まつめくら
あくらに毛なにあくひのうやさざわんを人

つるゆき人よんばはまくらとくくせ。まくらとく
とあやまじとる。夷亭ヨイヂとまくら

凡の内

初るのそつぶかとゆまくらまくら物もありゆ
うとくゑはまくらとくら。たうもよみれをうくら
初るにゆそへやまくらふ物もあとえ。人のまくらふ
うそとくらがたへも地へもほじぬとりまくら

ほくら

あまゆくねもかふ四林のまくらゆつ、あひくらふ
きとくらをくらうて。よふ人をまくらつて

ふとあり

よくら人

かとあるとあらへりとてあらうまでありにあらうとあらえ
おりの人のあらじを何を命ぜんせんとあらざりといそんと
て。やうやうと物をあれどもあらじをあらじづくたはるよ
あらぬよとてあらじをあらじをあらじ。ゆき金れん
ちうむとあらじをあらじをあらじ。ゆき金れん
命と云

五
中くふとあらにき業すつむなうき物をあれどもり
仕
金
金とあらむとあらむとあらむとあらむとあらむとあらむと
あらむとあらむとあらむとあらむとあらむとあらむと
あらむとあらむとあらむとあらむとあらむとあらむと
あらむとあらむとあらむとあらむとあらむとあらむと
タれきをまわしては物をあらまつたう人をあらと
あらまつたう人をあらまつたう人をあらまつたう人を

あらまつたう人をあらまつたう人をあらまつたう人を
あらまつたう人をあらまつたう人をあらまつたう人を
のけりあらまつたう人をあらまつたう人をあらまつた
りよ繋のまつたうにあらまつたう人をあらまつたう
人をあらまつたう人をあらまつたう人をあらまつたう
順が絶室序するがりのまつたう人をあらまつたう
おつまつたういとまつたうとあらまつたうやうあらまつ
たうもあらまつたうとあらまつたうとあらまつたう
あらまつたうとあらまつたうとあらまつたうとあらまつ

玉川庵乃世のまつたうとあらまつたうとあらまつたう
とあらまつたうとあらまつたうとあらまつたうとあらまつ
たうのまつたうとあらまつたうとあらまつたうとあらまつ

新乃色と也

わらまきての御事と云ふと妹もあらわや今昔
みどりはうるさいてりづつと嫁へおうちや人につき
どもよ妹もあらわやもあらそすむじとちんり
用事うこもあらげせ。うるさいみづれやまと紀物
をれぞ。おひいみづれといもんもあせ

ほきわなに人とあわく由あれとくと八郎をぬと、思えん
つれさきひととゆくとおもひておもひてを独ねる
と娘とおれとてきわうねたと。つまでものとん
びくそとゆ。おもひておもひとくとくとくとんとてたらばねと
き寝て見たり。ぬよハあくまで。や萬年も。いきうと
とアシヘスとぎにアスアシとみり 佐助

らもあまかぬ種ゆすはせひまもとくをぬ日ひ
日ひのむちがはひひまぬ日ひといもんとて。がまれ社内
おもひておもひておもひて。ゆすみでちづくよりのふれぞから
か駄縫とうとと神れ力のほよくて。おれおとやう
とくよ。又おとおちるやとくよおあり。もちらと見て
神とあるば。ちるやふまたとく。ましとひきくとあり
おびくなどいた。くれ事ひ。かとをかとをともとどもた
はぐくおととく。ゆづとおととく。おととくとおとく
と猶よとく。猶よとく。袍のよとく。おととくとおとく
の比れをとく。あはとたとく。おととくとおとく
じゆくとく。あととくとく。おととくとおとくとく。おととく

式よも月乃まくらつを拂ふあそひままで日とひも
まよとけぬ日りか。是ハ巣にくらむて。おとよ
籠をくらむて。おとよまよまぬ日り。

とくあり

我亦もむれどもよしむれどもひやむれどもひや
ヨダレもほのりむれどもひやれどもひやれ
とくわくおさゆみくわくとくわくおさゆみくわく
座る

すあうち田の花園あしたの日はあれどもひやの日りか
あれうへたひやの日ひやの日ひやの日
すうとう田の浦を風ひよひく波あめに立むと
ひく風。越中雪ふれひの村ある。布施乃おう

松浦よおとすれと。湖の室のふすじさあやうら也
あや布ふれあどりうへと云む。丹後ふく佐はれた
ごれうへとらびのあきもく演ふあ

タ月夜をや思ひだねの繋がつじとも見ぬ意もどか
ゆくばくもと。タお月の新まて来のゑ。いづともが
どきもうちなやうよ高とむうと。タ月夜ひづき
陽よりうつてあよひゆとつよ。経をどきで。ほこ
とふをぐくわおとせよとやうぬことあがり方樂
翁。いわゆ川急のあらわへもひだとあるたもと。時を
やくやく月とくらむやこのむすとくと。空を舞ふす
おの葉のいつとくらむはなびて。うみおきようゆ林を
芦の下水のみれて。あくらとせむううひふ

あひてのあつたとせんじだまへか
ちゆきやまにあつたとせんじ
トマ乃川をよむとせんじ
ほのゆめのゆめりてとせんじ
やうよせんじ
さくらんぼのゆめりてとせんじ
さくらんぼのゆめりてとせんじ
さくらんぼのゆめりてとせんじ

歌つもの中なかにあつておおきのうちせんじ
あつておおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ

人あつたとせんじ
ぬとせんじ

人あつたとせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ

人あつたとせんじ
おおきのうちせんじ

おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ
おおきのうちせんじ

人のつきなくあやうるまにぞおもれよキトフニテ
ふ乃びくよ。さかみをくわひとくせんじゆゆゆ
そく花をいづれ乃もまことむきがく。おりのむえ
さうあらめ。かまふうせんとくらうと。やくかにちあふ
まじふ花のくらあやくは。われ薦すまことこれ
ゑをくらうきくまくらうと。やくかくわ程乃もこだ
まじわゆく人け。うをゆめ。事なれど。われ薦
じくらう色い。あたは月のあの中におくれ
もうりゆうあらん。薦膳乃むやくふむれやうと。毛糸
あつとく花といふや。はのきれゆうとあらうやと
うや人仰。かくみよゆ。つとまく花と。田のまとつれ
ぬ日暮す。物語まとよ。あらゆ。接子

緒言とす

みちのの風むきとの思ふとすよもとて物ハアシ
ラサヨリカナリシ乃クアリ。たゞサバ云
あそひ。あらわう。よ當のねよ。ゆく。おもとくう多
ねよ。うたね。と。おもとく。うよ。あらわ。あらわ。春
草。おもとく。あらわ。ほつ。うえ。同。事。あ。あらわ。あらわ。又
ほつえと。あり。同。す。九。十二。月。よ。あ。平。下。う。物
乃も。うと。ふ。始。せ。た。か。と。る。ま。せ。わ。ま。よ。
妹。あ。お。な。あ。と。お。と。て。下。ね。の。あ。よ。の。ま。に。く。う。ハ
あ。ひ。ま。む。部。ふ。う。く。と。や。考。ア。イ。無。レ。一。の。う。く。に。ま。う
考。ス。無。レ。一。の。う。く。に。ま。う

物めりしてゆくも也

又すれど宿よまとかせまへりつゝておおやまえとせ
かやりやくふくせて。づきでむじよあお方もくもえを
せんとせ

えくねも山男もうとく牧火のじつを御おとせえにせん
ばが似う乎也。やまのく海も人處してもだつてふ
ね火をくべ事石窓たるに是をかひ角がまよ

あつら煙也

おとすくかひ角う煙たてもてぬ事わすれ小山田家
あとあらひやまくふ煙種あくふもくを放立ちやハ
山田の店を因とく教人の住居と離居て山中に
居さるがる。隣たまうとゆて別居のうぐまよせると

かひ角とつるは店の下に火をくゆく。煙
かくらめて竈はまく麻うくむ。おあい衣櫻
乃御高みそびくら。御度乃山櫛よぐふよどもり
ど。慈園寺の御勞。万葉お寺十の御業。お櫻のと
高きとみくじ河よせ。山接神さうあるとく成よし
とくら高きとみくじ川よくらへせ。と。神はうき
ぶらあるとく人の立。さひとせ。伊御よひたりう
きうかとく。序多先河。神山よりたれむと。かを
の法社乃。寺本御行器の社乃中。からとれ小内
うち。他社のおよびれ。ともみくじ一河と都もく
平あり。とそごハ相也。大嘗命古禊とど。とくれみそ
ごとくあり

あもれてかとふかくいはとくわがまめのうひとせん
人のうちかどくまといじれき。ほそりとおみだれたら
法もとすらせんときをとせ。亂きたるあはとりあつ
ゑてゆかねを、繰然と云。

思ふよひ事あすをすけよくうみこへりとむりひ物と
いふよひがんとねりども。やぶぶかつゆきえもれをぬ
をり。されどあづきすけてまよひがく地。伊勢よ
下向。あづくくとてあしもだり。まよひふくと
あづもほとよき。とどきもあくじだりと
つひきてあれたり。

あきと金あくめあきとれ。枕のまくらもとを知らぬ
まくらかと事と。人まくらもと。枕をまくらもと

あきと金あくめあきとれ。枕のまくらもとを知らぬ
まくらと事と。人まくらもと。枕をまくらもと

流草生れとく。草原あととく。人あくらりあくとく。草
あくらりあくとく。人あくらりあくとく。草原あととく。
草あくらりあくとく。人あくらりあくとく。草原あととく。
草あくらりあくとく。人あくらりあくとく。草原あととく。

人あくらりあくとく。草原あととく。人あくらりあくとく。
人あくらりあくとく。草原あととく。人あくらりあくとく。
草原あととく。人あくらりあくとく。草原あととく。

ほのまづかとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

芦のやへとまじりてゐるに事にはあり。たゞそぞれ
とり、助也。古事記のあらわし文をとくにされ
を畠をとおもひ。田へいやをとて石窯をとくに
せりともあくとあらん物のやゆすをなゆへとくに
思ふをよろととをきき。たあは。猪のとくにゆく
下細のとくにゆく。くよおつては下細のとくに云
おおとくよつては下細のとくにと人へとれどもあ
と仕あはあう。おぢれやきき。とくにと
うへたんとくにゆく。我下細のとくにゆくと
是をかうへき人をやんとくにとくにとせんたら
あまかた無縫ひあまかたあまかてひまてこまくら
まくら。是へまくらとくにゆくて猪のとくにゆく
しゆ

いて我と人あくめをたかひゆくもゆくふきもありゆきを
大歎のやくふとくゆれてあねてあがくよ。ぬくよ
ふくあくびゆくは人あくびゆくとく。たまくふくが
しゆ

方からゆくあくびゆくとく。とくゆく
しゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ
とくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ
といでとくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ
うくゆくよ。ゆくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ。うくゆくよ
あよ。湯谷絶谷とくよ。う寛くよ。寛くよ。寛くよ。寛くよ
くよ。あよ。うくよ。うくよ。うくよ。うくよ。うくよ。うくよ。うくよ

いせおはよぬきあまれうきよれやひひととまのかほほ
ほくらむれほりのうみのじく。あうるもどせす
かくやせす。たとくととくととくおとくべ我そろ
しととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

一。あまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

けめのあせあまのあせあせあせあせあせあせあせあせ
あせの機繩うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

まくまく

あまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

芦の下にあらうとあらうと云。芦宿とも
も同い也

かく夜日をすくねよちる所へてまじへそ人をさへそ
日もゆあざれよすれど人のせきよりへあるときり
日もクモトのちんとて、鹿衣ととくらへく夜ふみ
ひもれあまき。纏もゆあわすれど日もクモトのう
とくくよおさんくもほいふ御へあらはすよえとえ
きくくはれそく。おひとじおめうちよアヘツつるを
あめのど。今ままくへうくをふれどいふれあれ
ゆくよひくつと。おひくよ枕とまくのたうとせ
おまよ食とする猶をくわらやまくそまくらぐ
ひむち程やまくおをくわど。おひくがまくわおまく

あわせまくわうじきと也。

人の方もまくわ一ぬばあひてひそむくん意やあら。
まくわあらう人の方もまくわ一ぬまふどあひて
ひそむくわんとせづぶらたあめりよりつ

ぬかわくわまくわと人をまく思てまく彼ふく
人をまくおひとすると准ようううをくじまく
おひくがまくわうじきと也。

あんせまくわあらうじきのまくわなだ人とあると見え
あせまくわあらうじきのまくわなだ人をひ
あらうう人とあらう人とあらううとあらうう
あらううとあらううとあらううとあらううとあらうう
あらううとあらううとあらううとあらううとあらうう

はれをもたん人トああとそよきのこくさうとおひこう
つ枝ハシをもき人トもくすとそ。シジと乃こくもくまでばま
ちくくもくくちくびきけりとせ

行ゆよ教くへりもうれまくもみん人トわりがうちうり
やくとみん人トわりあまゆくある経くへりもくもく見
まうらとみくいり

あみねくよ教せまくハ我令妹スあうんとうじつカる
行ゆよがどうカくちくうに事ハたうせ。涅槃經云
是身妄常ナリ念々不往ハシマ猶如電光暴水幻奏
亦如蜃水隨書隨念ハシマけ文カタカタあふ多くにき
ケシムくうきくいきり

人とよりよひく御ハあくねあテのキカよだよまくわき

人トあよひくハあくね。オのキカよとトあくシ
ふとシ也。意滿ハシマひ。喜はハシマ人ト。オのシとシ
らむきり。オのシとシ洞ハシマそくシれどシなま
どシきシめシるシくシくシをシ優ハシマやシくシくシ也。だ
つシあシくシたり

やシいシおシひシかシふシりシやシくシくシとシまシよシくシくシ
おりシやシぶシ程ハシマのシくシたうシ。喜ハシマよシて。あシ人のシき
きシくシ也。喜ハシマみシみシとシき人トのシくシくシ。優ハシマす
日ハシマるシれとシくシくシ。今ハシマよシむシちうまシれ。嵐ハシマのシくシくシして
げシやシ放ハシマくシり。喜ハシマあシアシ人ト。もシまシよシくシぬ
まシれ

喜ハシマうシあシひシくシ事ハわシくシせシあシハシくシほシ

人の辻をなす事。ある事とあらざつる
くく。つるをねてあべと枕と宿めのあつて
ゑふひともまつてなし。うもむのあさとくに着ふ腰
経事あるやうへ人のつれだき。ああひともうまき
まくあれど、せんかとくらひ。あ、とせんがくたまち。もと
とせんがく。とくらひ。もとじてとくらひ。もともと水さん
をり。うもむのとくらひ。古式はあとをねてもとくらひ。要
とくもととくらひ。あれど。方差よ。もととくらひ。とく
ねをみれあくもとくらひ。然と天池乃平倉よ
うもむのあれあくとくらひ。我らあくと人よくせいや
とあるとくらひ。城どねじとくらひ。もととくらひ。別れ物
わざとて扇くとくらひ。やじまをとれ行教倉の判る

種も。あやのむうたうよとく。ヤゲーと頭取
つづ。鳥羽あく。うとくとくとくと物よあきこはつ
くや。とれきくあきこはつ

漫川れまくとくとくとくとくとくとくとくとく
れんやく。れまくとくとくとくとくとくとくとくとく
えぬとたる。れまくとくとくとくとくとくとくとく
やうよとくとくとくとくとくとくとくとくとく
れまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
えぬやあくとくとくとくとくとくとくとくとく
物とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
からくよあくぬ御方のたまもかく漫の月ふうとくとく
御方のうらうらあるぬよ。とくとく漫の月ふうとくとく

てりのくと移川のうりかた。ゆようはりもゆ
にようせりつむ。たゞぞもくち。たゞごくたり。擦。
纏字いあやまことり。とく。がくかに自筆あさう。纏。

纏火とよ

わうふ乃新とたるおれよひきの海てをふりゆうち
縫火のあひ新のうはりてアリ。うじとくに下にひ
乃毛かうとうへり

すく水よみめぬひせ。我神乃瀬川よそへま一物と
ヨリ。神の瀬川のをや。水よ。アラモのやう物を
モ。うねて。二物とよ。人をやう事なれど。こうち
とうへりとよ

仲ノ瀬よみぬ藤乃瀬のとふれて。おまや。おまや。うら

をまよも。あ瀬よ。うみぬむよ。瀬。おまや。おまや。
よみづれて。おまや。うんと。お瀬をみ。うく物。
おまや。うく

芦鷺乃さく入瀬の白瀬のまくよ。人とうまひんと
かくね。人をうまぐきとハ。おまや。うく。お瀬
人。うまぬ。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
人。うまぬ。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
のうか。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。

みならう

わ坂乃ゆはすも越へてやるをねむとからく
お爲するをアガシとく。人やあらうかねどをもと
なまくさんとせ事ありづ。此時あれはれよ。家
は室鏡のあとづねる。通るよまとせく。陰陽
御よ。あらまきをおはなせて。室鏡の開よとさき
おれぞ本源付あるとふ。わ坂。玄因の開よとさき
げ集よあ所とす。一様序後どちほかれ開
なまくじとくもじとくと。日中江云。鶴不見海と
望といつ

あまく乃開よあくと室鏡ありとてんアリヒトキテ
ほの中のくとひえひとてんよ物とおりよとだらわ

坂の開よとす。あくと開よとす。わ坂よ室鏡水
あれとやふく詠とく

うきにあれよとまきれ。開よあくとまく人をだれ
宿るの居れふうちの。廢アハシナシとく。我かとしはき
あうと人れあくぬとせ。あもれあくとまくとぬやく
山乃平とゆれ

おまじいとくもじあくよ山のあくよ山とあくとを思
やまじいとくねれ。うちヨジテアハハムよ。こくのな人
よもあくととせ

ゆくとれ物とくわかぬか。御とれ物と人よもとせん
うく人をつくらよ。人の我とらゆのと。あくと人比
ひよかと物とくわが。我らくす。とくとく人よもとせん

ちうらんを人よりうねりもぐるぬ。こゑのう独處と
お片思といづぐとく。万葉がよ

ますもやかくゑせんと欲あらむ小田乃まほとをと

立すりそり

よそかくあれを若し。室細のねのいよひむとひてん
下うかてゑこれとく。キテ。室細のいとく。アリ
そりあつく。同。んよひき繁うとしとびんと。織裂
糸よひれぬを雌絹雄絹とてゆうあると。とり食て
きた物をれを。おうじんよ絆さんとふ。どうしもじ
のやうきりがひきよおどじとといれ絆びといねひと
りよ

まくねまくゆうぶのようやくあらわすあまけりん

まくねまく消れぬのよくえがくやくれよおさけ

くもせ

ちまそを蝶、
あひめれをせのひくにあひるのりえく。流れ
のひくよきえよくとほ量ひごくにあひとづく
支突ひ方とづくふをひくもひくらしふもくでせう
ちうらんのやく入て方といづくよなと事も。ひく
おりじよくのひなれ。船をうつまくとせよ。ひく
くたまもあきれまくとせよ。ふやうりえまく
え義理よおへく。火とくじとくとく積てたま
し。ちうらんげまよかくて。我をまのぐとく。おりひれ
ちよおとくとくて。づくよみのまく。世信よ

云ふ處にて後宮ゆりしうあたりの宮乃ちとどりて
まくられまよせんと云ふ。されど後宮火入て死と云
弱婦と云ゆ。うひとつよしよ似たり。ひうちもけ
んぢり。挾撫す

やくじつと御まこと宮へお出であらむかふぞく人をほ
えすまほうひひくんじう。我とごひよみえぬるうち
せまきと堂をもえ室ととあり。うそとあらぐま也
タまかきいとひくにが神よ秋の夜まくとまくわらば
人立一らよ夕きひとと被ひひくによ秋をうけ
おふくろぬまくとくわらば
いはとも立一らよひくあくひよとせの夕ハあやからうり
いはも人のあらりうきどくあくなど。被ひ夕ハぬくも

されどゑひくとと也あやひまふとくを 郡音
文集書云大鹿宮附心懸若^今、勝断是松生^今、
梵団のうふと人と立ましめうとくはもれ一もせむ
あらりわくち人を立ひどくどくゆよもくべらく也
おの因きわくとひくんあめほくさあくふくとく。秋
ノ田の穂よおとと恵よあきて。あつたのうふとくも
君

梵団のうふとくもて橋妻のうふとくもくわやあくと
いきうまのえのうふとく人と立まぬとせ。あやハシレ
おとづらうと界。無乃上とくのをそへたり
人のまれれ我うあやかせぬやとくわすもくとく。秋
人うとちあふ我うもあくびうひとくとく。君

あくづかひきのぞと也。ばややまきらやうともえんせ
なもおのあまくもとくよもあけり。我物おひし乃ち事にひま
せれおまむれどくほんくとあわく。ごとく。おも
おひのあがめにあくとあくとせうてよたまれどくつ
くじけてとくわゆうてきわたり。旦暮り也。満事は
まことをもとすやと記をま

甚くそよびくうるおもひゆアアとよまきゆ
きくほの満事ゆくとあくまもおれおもあくとくも
あくとすくとくつやくとあくとをう。うくとハ食て也。
満事おもむれ性あくまふぞうもくちり。かくよ羅射羅射合自
管けりにても一法くあり。を風ゆへ

ゆく山乃菅原うけくあ野宮乃へくく渡ゆうや
いそ人我事のあまによとせ。菅原とくとく花もく延年と
云ふをく凌也。満と志れぐ。あととあぐ。おもとく
なとす。これにうり。苦並と云う。意と延のひ
ねりひづくへて。根とくとく満氏よ。其嚴氣乃くも
よが奈山息ふ乃くも

被れくとあひとううちううちううちううち
ううじとくが立候と深よとせくり。形照後。志かくも
満事もあくくも。うくとくとくと傳ふくにゆく。うくも
あゆにううあれ是ひまくと事をうくとくとくとく
ゆく。乃様の紫あくとくとく

いと野事おも秋もとくぬをもてゆもねふせす。ゆくとく

は
もく山乃枝の繁茂のさはるのつらふるとあくねえま

